

医学研究実施について

当院では下記の研究を実施しております。この研究は水戸協同病院倫理委員会で審査され、病院長の承認を受けて行われます。研究の対象となる方(または代理人の方)で、この研究計画について詳しくお知りになりたい場合や、この研究に試料や情報を利用することをご理解できない場合は、お手数ですが下記の連絡先までお申し出下さい。ただし、対象となることを希望されないご連絡が、研究期間以降になった場合には、研究に使用される可能性があることをご了承下さい。同意の有無が今後の治療などに影響することはありません。

【研究課題】

胃管自己抜去の原因と対応策の検討

【研究計画の概要】

○目的

日本看護倫理学会によると、近年介護老年福祉施設等において身体拘束は行われなくなってきたが、依然として医療機関では身体拘束が実施されている状況がある。医療機関において、点滴や胃管等の装着は不可欠であり、特に意識レベルや認知機能が低下している患者に対し、自己抜去予防として身体拘束を行う場面が見られる。

しかし、自己抜去を予防するために身体拘束を実施しているにもかかわらず、胃管をはじめとするデバイス等の自己抜去が発生している。先行研究では、身体拘束の実施は看護師の状況判断に委ねられているのが実情であり、使用判断に差があると述べられている。身体拘束解除後に自己抜去された事例や抑制帯を使用しながらも自己抜去された事例がある。看護師として患者の尊厳を守るために身体拘束はなるべく行いたくないという思いがあるが、自己抜去することで再挿入に伴うさらなる苦痛を患者に与えることになるため、葛藤しながらもやむを得ず抑制を実施している。

脳神経外科の入院患者は、嚥下機能の低下から胃管が留置されている患者が多い。また意識レベルが低下している患者が多く、そのような患者に対し身体拘束が行われているが、度々自己抜去が発生している状況である。そこで、今回は5階西病棟内の胃管の自己抜去の傾向を見て背景分析を行い、今後の5階西病棟における胃管の自己抜去件数の減少につなげていきたいと考えた。

○研究期間

倫理委員会承諾日～2025年2月(調査対象期間 2023年12月1日～2024年5月31日)

○対象となる方

2023年12月1日～2024年5月31日までの間に5階西病棟に入院しており、胃管挿入中であり、自己抜去した患者

○研究に利用する資料、情報

2023年12月1日～2024年5月31日までの5階西病棟で発生した胃管の自己抜去について、発生件数や時間帯、発生要因などを収集し、背景分析を行う。

○倫理的事項

1) インフォームドコンセント

本研究はインシデント報告書から情報収集を行うため、あらゆる期間においてプライバシーが保護され匿名性が保証されること、得られてデータは厳重に保管しデータを本研究以外で使用することはない。

2) 個人情報の取り扱い

調査は無記名とし、個人が特定されないようデータの保管にはパスワード付き USB メモリーを用いて、病棟師長の管理する鍵付きの引き出しで管理する。また、研究終了後には研究で使用した紙媒体を破棄、USB データを削除する。

3) 研究対象者に生じる負担ならびに予測されるリスク及び利益

胃管の自己抜去が起こる原因と自己抜去を予防するための対策を明らかにすることで、今後有効な自己抜去予防の手がかりを得ることを目的としているため利益は発生すると考える。勤務する病棟内で発生した過去の胃管の自己抜去の傾向を見ていくため、研究対象者への負担はないと考えられる。

4) 資料・情報等の保管及び廃棄方法

保管方法については電子データについてはパスワード付きの USB メモリーに保存し、紙面データについては、使用時以外は病棟師長の管理する鍵付きの引き出しへの保管を行う。廃棄方法については、本研究終了時に紙面データはシュレッダー処分とし、電子データについては USB メモリーからの消去を行う。

○その他

本研究における資金提供及び明らかな費用は生じない。また、本研究に関して開示すべき利用相反関もない。

【問い合わせ先】

水戸地域医療教育センター・水戸協同病院 5階西病棟
研究責任者 川島 百花

電話:029-231-2371(代)